

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和3年2月20日

公表:3年3月20日

事業所名 児童発達支援事業所 くくる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用者ごとに物の配置を工夫し、安全かつ、広く活動場所がとれるようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である			利用人数に応じた職員の配置を話し合っている。	設定活動等を固定化し、コメディカルの職員が均等に配置ができるようにする。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		危険なく過ごせるように常に見直している。	特に身体の不自由が認められるお子様に対しては、保護者の意見も参考にしながら、環境を常に見直していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃・消毒を行っている。また、活動に合わせた環境設定に取り組んでいる。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		個別の支援計画を作成し、計画的に関わるようにしている。	長期的な目標と、短期的な目標をより職員が理解、見直しができるようにカンファレンスを定期的に行う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		今回の実施が初めてのため、今後も定期的に行っていききたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		今回の結果を元に、事業所内での話し合いを行い、今後に繋げていく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在、感染症対策の観点から第三者の外部評価は行っていないが、今後実施したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンラインでのセミナー等に参加している。	感染症対策が十分に行われるようになった時点で積極的に研修の機会を確保していきたい。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別の支援計画を作成し、保護者と事業所内相談を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		設定活動において、目標が達成されているかコメディカルとカンファレンスを行っている。	アセスメントツールについて職員間で適切であるか随時検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		日々の療育の内容を常に見直し、適切な内容を提供出来るようにしている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		長期的な目標に向けて、毎回の療育を目的を持って支援するように心がけている。	短期的な目標を達成出来るように、職員の役割をより明確にし、援助に携わりたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		作業面・言語面など様々な視点で活動プログラムを組んでいる。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		作業療法・言語訓練に加え、お子様のニーズに応じた活動を立案している。	お子様の自立や就学に向けて、常に新しい視点に立ち活動プログラムを立案していきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団での療育が難しい場合は、状況に応じて目標を設定し、個別に支援を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		手順書や、日案を職員で確認をし、当日の療育について打ち合わせをしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日誌や日案に保護者様との連絡や、お子様の様子等を記入し共有することや反省を行っている。	反省を活かした活動プログラムの立案を行っていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援の対象となる観察項目を決め、日案を作成、フィードバックしている。	作業療法や、言語訓練などを計画的に活動プログラムに組み込み、計画をしていく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		カンファレンスを行い、支援の内容を検討している。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			お子様の通所について、保健センターや相談支援事業所と連絡を取り合っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			現在、医療的なケアが必要なお子様は利用をしていないが、今後連携をとっていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育所に対象のお子様のモニタリング等で訪問を行ったが、コロナウィルスの関係で継続できていない。	情報共有を積極的に行っていききたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現在行っていないが、今年度就学に向けて支援を行っていききたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		担当した職員が療育内容を説明している。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		ニーズに応じたプログラムを今後実施していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際に、重要事項説明書をお渡ししている。	契約時に説明をしているが、不明な事が無いように配慮していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		個別の支援計画を作成し、保護者に説明を行った後、写しをお渡ししている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		事業所内相談を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		母子通所以外の保護者同士が関わる機会は少ないため、感染症への心配が軽減された時点で取り入れていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		事業所内相談の内容を書面にて作成し、今後の方針などを職員間で把握するようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		活動内容をお知らせしている。	保護者様のニーズに応じた配布物等の考慮をしていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		そのような行事は行っていないが、今後考慮したい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者様へ服薬等のことを確認をしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			現在、食物アレルギーについて、医師の指示書が必要なお子様は通っていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			打ち合わせ反省等で共通の理解を得るようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			身体拘束が必要なお子様は通っていないが、今後必要な際は、職員間で協議する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。